

主体的・創造的に音楽活動に取り組める児童の育成

-学びのつながりを実感できる音楽ノートの活用を通して-

特別研修員 音楽 大島恵依子 (小学校教諭)

【児童の実態】

- ・これまでの学びを活用して思考を深められない。
- ・自分と友達と協働して表現を創り上げる喜びや表現の高まりの実感の不足。

【教師の願い】

- ・これまで身に付けてきた知識及び技能を新たな題材や教材において活用させたい。
- ・互いの表現のよさを見いだしながら共に表現を高めてほしい。

手立て1 学びのつながりを実感できる音楽ノート

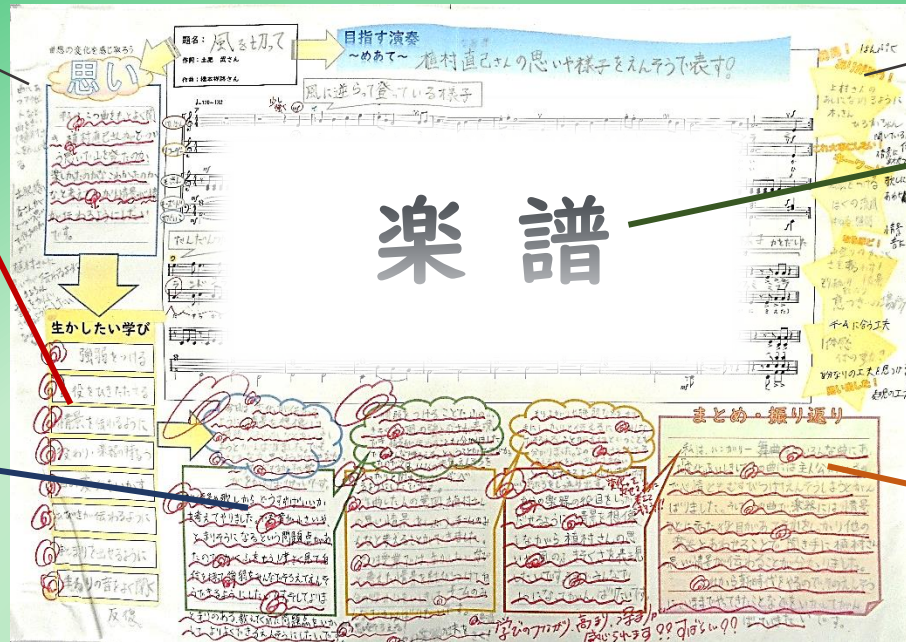
自分の思いの可視化

①これまでの学びの想起

- ・どんなことを学んできたか
- ・これから生かせる学びの選択
- ・課題解決の見通しや視点

③一単位時間の振り返り

- ・何を学び
- 何ができるようになったか
- ・次時への視点や関心
- ・課題解決への見通し



自由記述欄

(友達の考えや新たな気づき等)

②教材ワークシート

- ・自分や友達の思いや考えの可視化
- ・題材や本時のめあての共有
- ・教材の特性を生かした提示

④教材・題材のまとめ

- ・学習過程一連の流れで、何をつかみ、何を思考して、どのように解決してきたか。このあとの学習にどう生かせようか。

手立て2 音楽ノートを課題解決のツールとして活用した学習展開

導入

展開

終末

③一単位時間の振り返り

前時までの学びを振り返り、課題を設定し、解決の見通しをもつ!

①これまでの学びの想起

パートごとに、これまでの学びの過程を確認し合い、何を視点に追求していくかの共有!

②教材ワークシート

①これまでの学びの想起

②教材ワークシート



各パートの工夫と演奏を聞き合う!

パートの工夫を合わせて試して合奏!

再追求後、もう一度試して合奏!

「それぞれの工夫がうまく表れていないね。」
「なぜなのか、考え直そう。」
「そのあとでまたもう一度、試していこう!」

再追求

「変化を生むためには、5年生の時に学んだ『強弱をどうえる』が大事じゃないかな」
「たしかに!全部のパートがどううしろ前のタイミングで一緒に強弱をつけてみよう!」

工夫を表出させるための再追求!

③一単位時間の振り返り

④教材・題材のまとめ



全体でのまとめ

振り返りの記入

言葉による振り返り

演奏による振り返り

3年間の学びがこの「風を切って」に表れているなと思った。初めて曲を聴いたときと今では、自分の思いも違ってくるのだなと思った。5年生でもこの題材を学習したけど、そのときの思いよりも成長できているなと実感できた。音楽は学びをつなげる勉強だと思うから、つぎの曲にもつなげられるようにしたい。
(児童の音楽ノートの記述から)

【成果:手立て1】見るもの書くもの、視点にしていくものが見開き1ページに収まっているよさ!

→学習が円滑に進むだけでなく、学びを相互に確認しながら学習を深め、熟考する姿につながった。

【成果:手立て2】一連の学習過程に位置付けられているよさ!

→児童の記述(思いや意図)を基にすべての学習活動が設定されていくことで、児童がこれまでの学びをバージョンアップさせながら追求する姿につながった。

【課題】

音楽ノートに多くの学びが蓄積されているが、そこから追求の工夫をより焦点化すると、視点が定まり、児童の表現の高まりの実感につながったと感じた。

